

# 第 11 回 円山川流域委員会 議事録(概要版)

## 会議の概要

日 時： 平成 16 年 9 月 14 日(火)13 時 00 分から 16 時 00 分  
場 所： 但馬地域地場産業振興センター2F 多目的ホール(豊岡市)

### 1. 開会及び委員長挨拶

庶務担当の(株)東京建設コンサルタントが議事進行を行った。

円山川流域委員会委員長藤田裕一郎(岐阜大学流域圏科学研究センター教授)が挨拶を行った。

### 2. 報告

庶務から第 10 回委員会の議事内容について報告があり、審議決定事項の確認が行われた。また、第 10 回委員会以降の経過について報告が行われた。

### 3. 議事内容

#### 3.1 円山川に関する想い・意見の集約結果の報告及び意見交換

#### 3.2 今後の委員会の進め方

- 1) 今後の委員会の進め方(スケジュール案の提示)
- 2) 課題検討会の開催について
- 3) 課題検討会の進め方

#### 3.3 その他

### 4. 審議内容および決定事項

#### 4.1 円山川に関する想い・意見の集約結果の報告及び意見交換

これまでの委員会、アンケート、ヒアリングで述べられた円山川に関する想い・意見を抽出、集約した結果の作業工程報告が行われ、その集約結果である「委員の意見の集約フロー」に関して意見が交わされた。また、今後の整理手法に関する話題提供として、川合委員、藤田委員長より整理手法の一例が提供され、議論された。主な意見・質問は以下の通りである。

#### 主な意見・質問

- ・今年台風 16 号、18 号での被害状況を知りたい。(安森委員)
- 豊岡河川国道事務所管内では被害はなかった。(河川管理者)
- 兵庫県八鹿土木管内では、河川の被害として構造物の一部が壊れる程度であった。(県河川管理者)
- 国交省で被害が無かったとはどういうことか？直轄上流で農地冠水があったそうだが？(江尻委員)
- 国交省管理の河川管理施設については被害がなかったということであり、内水や高潮等で浸かったところはある。被害がなかったという認識ではない。農林関連等では認識している。(河川管理者)
- ・地域住民の被害と河川管理上の被害とにズレがあるのではないか。そのズレを修正してもらえればと思う。河川としての責任という分担はないかもしれないが、流域の議論をする場合に河川としての分担の整理をして頂きたい。河川と関わりのない話は流域委員会に反映されない場合とされる場合がある。流域委員会のまとめとしてどの範囲まで議論すればよいかかわれば有り難い。(池田委員)
- ・豊岡の地価が下がった原因はなにか？円山川流域での地盤沈下・軟弱地盤の影響もあるのではないか。このような話も流域委員会としてどこまで当てはまるかというのはあるが、円山川を何とかして欲しいという、本委員会に対する市民の期待感を持っておきたい。(安森委員)
- ・集約フローの円山川の景観という集団に丸石河原の維持という項目を追加して欲しい。(菅村委員)
- ・集約フローには漁業のことが書かれていないのではないか。人の営みに入らないか？(菊地委員)
- 生き物に関する項目は自然環境に分類しているが、人の営みとしても分類されるかと思う。このような意見については 2 つに分けずに 1 つに集約しているが、少し表現をかえて今後加えたい。(庶務)
- ・今後、治水、利水、環境で具体的に何が問題となるのかを議論していくと思う。(服部委員)
- ・河川利用率が高くないとあるが、必ずしもそうでないのでは。社会的・心理的に川が遠くなっていると言い切れるのか。(上田委員)
- ・ごみ問題への住民意識を高めるようなことをテーマに盛り込んで欲しい。(松田委員)
- ・上流域と下流域との問題を同時に考えていく必要がある。(前田委員)
- ・災害時と平常時を分けた方がはっきりした議論になってくると思う。(垣田委員)

- ・治水、社会、環境を対立構造にとらえるのではなく、この間をつなぐ解決を見いだす場、意見を咀嚼し直す場があればいいかと思う。（池田委員）
- ・治水、利水、環境の三つが必ずしも満足する解はないと思う。それぞれが対立するのではなく、それぞれの特徴を生かす最適解を探していくと思う。その最適解は時代、社会情勢の変化と共に変わっていくものであると思う。（川合委員）
- ・解決の方策の中に直近でやらなければならない課題があるはず。課題を整理していくうえでは時間軸をいれながらやる必要がある。（池田委員）

#### 4.2 今後の委員会の進め方

今後の具体的な委員会の進め方（スケジュール案）と委員会の準備作業的な場として開催する課題検討会の内容が示され、議論された。主な意見・質問は以下の通りである。

##### 主な意見・質問

- ・委員毎の分かる分からないという点をしっかり詰めていく作業や、たくさんの資料を咀嚼する作業をするために課題検討会を開催したい。（藤田委員長）
- ・課題検討会は賛成する。参加人数等はどのようにするのか。参加は自由なのか（岡本委員）  
特に定数は設けずにできるだけ委員が集まる日時を調整する。不参加の方にはあらかじめメモ等を庶務に示して頂くとかを考える。後日説明等を行う必要もあり、世話人を設置したい。（藤田委員長）
- ・課題検討会では、これまでの委員会で出てきた資料が大量にあるので、これについて聞きたい、議論していきたいというものを整理して頂き、河川管理者に何を聞きたいかポイントを絞る整理をしたい。河川管理者の説明は基本的に委員会でを行い、議論していくと考えている。（藤田委員長）
- ・世話人となって、事務局と今まで出てきた意見をもう一度整理・作業する。テーマ毎に小グループを作って調整をして議論する。というは大変ではないかと思う。（池田委員）  
これまで出た円山川への想い、意見からどのような課題があるかを再度議論するのが有益だと思う。再度考えてみれば、さらにいろんな議論がでてきて、次の段階ではその議論の結果を委員会の場に示すということになってくると思う。（藤田委員長）
- ・河川管理者にはいろいろ説明をしてきてもらったので、それを委員間で共通化する、議論する場でもあり、意見の集約フローをもう一度検討する場として課題検討会を位置付けたい。（藤田委員長）
- ・全体的な問題に対しての課題検討会も良いと思うが、治水等のテーマを出してもらって、意見をまとめてもらった方が良いのではないかと思う。（服部委員）  
テーマを決め、課題検討会を行うという具体的な作業も今後必ず必要となると思う。（藤田委員長）
- ・課題検討会を何回か行う中で委員会がはさまる。こうなると、河川整備計画原案の提示を受けての意見書の項目出しと考えて良いか。（池田委員）  
文章としてまとまるか、そうでないかは今後の議論であると思う。（藤田委員長）
- ・課題検討会については今回の進め方案のままで行いたいと思う。最初は委員会での資料を整理していきたいと思う。また、住民意見の反映のあり方に関する進め方については、今後、経験のある委員にヒアリングを行っていききたいと思う。（藤田委員長）
- ・この委員会は現在と未来の視点に立っているが、過去から現在、未来における視点で考えて欲しい。明治23年の測量図には、大改修で姿を変えた以前の姿、本来の姿が示されている。そこから、江戸時代の治水対策のあり方とその評価をして欲しい。なぜ、円山川の改修が必要であったのか、また、どういう形で改修されたのか示して欲しい。（山口委員）

今後の委員会の進め方について、以下に示す審議決定が了承された。

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会での検討内容整理や課題への理解を深めるため、課題検討会を開催する。</li> <li>・課題検討会の進め方やその内容などについては、第1回課題検討会の中で議論する。</li> <li>・課題検討会では、課題検討会の開催呼びかけや委員会での報告を行う世話人を設置する。第1回課題検討会の世話人は藤田委員長とする。</li> <li>・関係住民意見の整備計画への反映のあり方については、この事項に詳しい委員へのヒアリング等を実施したうえで、次回委員会において住民意見の聴取方法を議論する。</li> </ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### 4.3 その他

##### 次回の委員会の日程

- |                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回課題検討会は、10月上旬に開催する。</li> <li>・第12回流域委員会は、12月中旬に開催する。</li> </ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|

一般傍聴者からの意見・質問

- ・ 流域人口が減っている。このような人口動態を頭に入れて円山川をどうするのか考えて欲しい。
- ・ 円山川KTR橋梁について、北丹後鉄道と国土交通省の交渉がどうなったのか なぜ他の川に比べて堤防整備率が低いのか。地盤沈下と塩水遡上が影響しているのか 河川管理者は取水口の位置を変えようと言っていたがその後どうなったのか。  
については京都府の第3セクターとなっており、引き続き県に働きかけたい。については暫定堤としては67%くらいあり、整備が進んでいないわけではない。ただし、3割くらいは未堤防となっている。についてはわからない。地盤沈下については事実経過として1年に1cmである。については、取水口は豊岡市が新しい位置で建設中である。(河川管理者)